

単元観

創作の活動を通して、音楽が生み出す雰囲気や表情など、音楽の構造との関わりについて理解するとともに、創作表現を創意工夫することで、音楽に対する感性が豊かになる。

本単元では、創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、調性や音階などの特徴、反復、変化などの構成を生かし、テーマや意図に沿って創意工夫し、旋律をつくることをねらいとしている。そして、創意工夫をするために必要な、課題や条件に沿った音の選択やリズムの組み合わせなどの技能を身に付けることにつなげたい。

生徒が音楽のつくり手となり「どの音を選択し、どうつなげていくか、どんなリズムを選択してくか」と創意工夫する中で、基本となる和音から選択する音やリズムによって生み出される音楽によって様々な音楽表現をすることができ、限りなく音楽が広がっていくという面白さを実感させるという点で意義深い単元である。

生徒観

本学級の生徒は中学1年時に、簡単なリズム譜を使って自由に選択した音をあてはめていくという無調性の「旋律づくり」に取り組んでいる。そこではほぼ全ての生徒が旋律をつくることができている。また、創作した旋律を使って発表会をおこなうことで、自作の曲に愛着をもち、曲の良さを味わうこともできた。しかし、この時点での旋律はただ漠然とした音やリズムの羅列に留まり、どのように音楽を作るかについての思いや意図をもつことは不十分だった。そこで2年時では、創作表現に関わる知識や技能を得たり生かしたりしながら、調性や音階などの特徴、反復、変化などの構成を生かし、意図をもって創作し、作曲工夫の説明ができることをねらいとして、課題や条件に沿った音の選択やリズムの組み合わせなどの技能を身に付けることにつなげたい。

本時の評価

○本時の評価規準

言葉の抑揚と音のつながり方を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら創意工夫している。

○本時の主眼

調性や音階などの特徴、反復、変化などの構成を生かし、テーマや意図に沿って創意工夫し、工夫点を説明できる。

○本時のまとめ（授業の最後にふりかえること）

課題にあった曲にする為には、音の選び方、音楽記号を用いる所に気をつけなければならない。

○本時の生徒に提示する評価のものさし

A	B	C
調性や音階などの特徴、反復、変化などの構成を生かし、テーマや意図にそって創作し、音楽的工夫が2要素と結びつけられて作曲工夫を説明している。	テーマや意図にそって創作し、音楽的工夫1つを重視して作曲工夫を説明している。	和音の響きからの音のつながりを知覚し、リズムや構成を工夫して、曲を作っている。



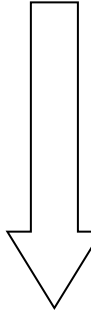
指導観

本単元の指導に当たっては、和音のそれぞれの特性や流れを意識して自ら音楽をつくるという活動に取り組むことで、調性や音階などの特徴、反復、変化などの構成を生かし、作曲工夫を説明するなどして、思いや意図をもって創作することができることをねらいとしている。

そこでまず、1年時までの学習内容を発展させるために、循環コードの進行に合わせた簡単な旋律を創作する。循環コードとはある一定のコードが循環して何度も繰り返されるものを指す。今回はその中でも一般的な進行のものを使用した「カノン」（パッヘルベル作曲）で、生徒たちが親しみをもちやすい音楽を取り扱う。

次に本時では、テーマや意図を調性や音階などの特徴、反復、変化などの構成に生かし創作する。また、それぞれがつくった旋律を記譜し、作品として残すようにする。生徒は自分の楽譜を見返した時に「こんな表現にしたいから、こういう進行を選択したんだ」というように、作曲工夫の説明を通して、旋律に自分の意図したものが表れていることに改めて気づいてもらいたい。

最後に、自分たちが作った曲の良さをそれぞれ味わうために、記譜した作品を友達と共有する発表の場を設定する。自分たちが意図をもってつくった音楽を友達が理解し歌ってくれるという経験は、生徒に大きな喜びと自信をもたらす、音楽に対する感性がより豊かになるだろうと考える。

	豊津スタンダード	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価規準・基準
導入 10分	<p>思考を揺さぶる 授業展開</p> <p>① 見通しを持つ (評価のものさしの提示)</p> 	<p>1. 課題や条件を確認する。 調性(コード進行に合わせる。ハ長調)、拍子(4分の4拍子)、2部形式(4小節を個人でつくる)</p> <p>めあて: テーマにあった曲を作り音楽的工夫点を説明しよう</p> <p>(テーマ例)「歌いやすい曲」にするための音選び 「心が落ち着く曲」にするための強弱工夫</p>	<p>○3人グループで創作活動がスムーズにいくために、創作の流れをつかませる。</p> <p>○本時のめあてに導くために、テーマと音楽的工夫のつながりを確認させる。</p> <p>《評価のものさし》 A: テーマにつながる音楽的工夫が2要素と結びつけられている。 (例: 音選びと強弱記号のつけ方を合わせることで、○○な曲になる) B: 音楽的工夫1つを重視している。</p>	
展開 30分	<p>②自分の考えを持つ</p>  <p>③自分の考えを 広げる、深める</p> 	<p>2. テーマや意図から音楽的工夫を用いながら創作する。 (例) リズムパターン(付点を用いたリズム、シンコペーション) 音と強弱(強い音にするために音を上げていく)</p> <p>3 (1) 個人で創作した【主張】を思考モデルを使って説明する。</p> <p>A 「歌いやすい曲」にするために、階名順番で3つ以上離れないように音を選び、メロディーの動きが山になることでクレシェンド、デクレシェンドがつけやすいようにしている。</p> <p>B 「歌いやすい曲」にするために、同じ言葉のリズムや、メロディーを繰り返している。</p> <p>(2) 個人で作った旋律をつなげて、グループで音楽的工夫を交流し、自分の旋律を再度工夫し直す。</p>	<p>○課題や条件を創作に生かし、テーマや意図を音楽的工夫点として根拠で説明できるようにするために、例を提示する。</p> <p>○2部形式の曲を完成させるために、グループ内で個人の旋律を思考モデルを使って説明させる。</p> <p>○テーマや意図に合わせるために、グループ内で話し合いを行い、旋律の付加修正をさせる。</p>	<p><学習プリント分析> テーマや意図につながる旋律を作れている。</p> <p>音楽的工夫を根拠として説明している。</p>
まとめ 10分	<p>④「何ができるようになったか」を評価のものさしを基に振り返る</p>	<p>4. 本時のまとめと振り返り 《評価のものさし》をもとに自己評価を行う。</p> <p>テーマに合う曲にするためには、音の並びだけでなく、強弱記号を付ける位置や全体の流れや構成を考えてつくらなければならないことがわかった。</p>	<p>○本時の学習内容の何ができるようになったのか、わかるようになったのかをメタ認知させるために振り返りシートを書かせる。</p>	